

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立田原小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語	33人
② 算数	33人
③ 理科	33人

5 留意事項

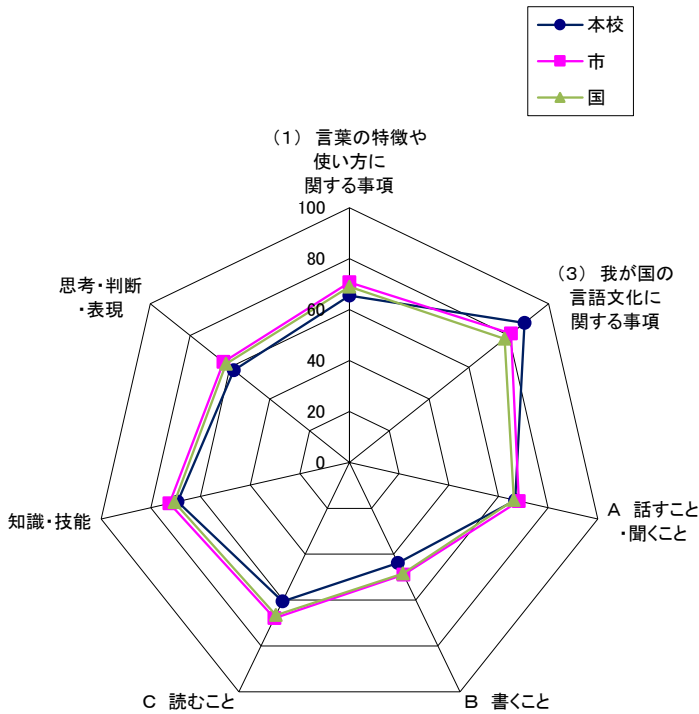
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立田原小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	65.5	70.7	69.0
	(2) 情報の扱い方に関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	87.9	81.1	77.9
	A 話すこと・聞くこと	66.7	68.2	66.2
	B 書くこと	43.9	48.9	48.5
	C 読むこと	60.6	67.9	66.6
観点	知識・技能	69.2	72.5	70.5
	思考・判断・表現	58.0	63.2	62.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

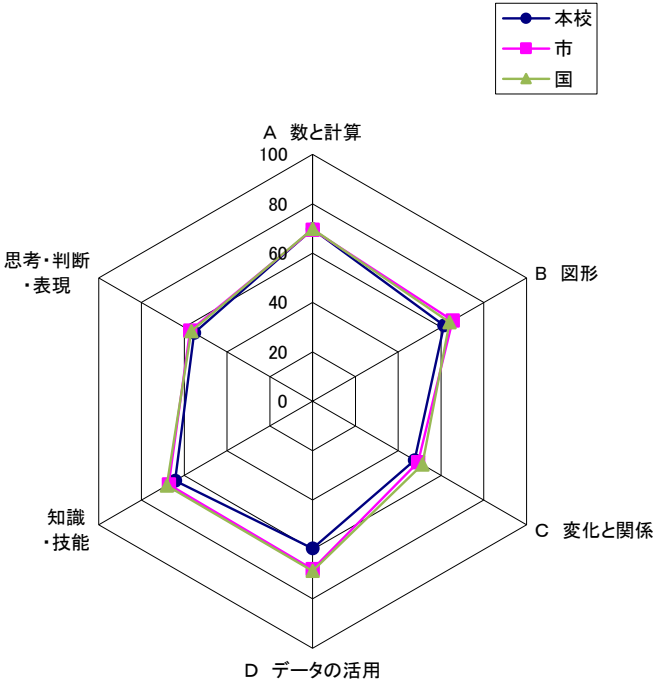
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、全国平均よりも低い。 ○話し言葉と書き言葉の違いは、おおむね理解できている。正答率は市の平均より上回っている。 ●漢字の書き取りが定着していない。その中でも熟語の漢字の正答率が低く、全国平均よりも12ポイント低くなっている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・今後も漢字の定着に向けた指導を継続する。漢字指導においては、熟語調べなどに関連させて指導を行う。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、全国平均よりも高い。 ○漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くことに関する設問の正答率が高い。	・古文や漢文を音読することにより、言葉の響きやリズムに親しむことができるようにしていく。 ・これまでに会った昔の人の言葉から、最も心に残ったものを読んで文章を書く活動を通して、昔の人のものの見方や考え方をすることができるようにしていく。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、全国平均とほぼ同じである。 ○必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることがよくできている。 ●互いの立場や意図を明確にしながらい計画的に話し合い、自分の考えをまとめる設問の正答率が低い。 スピーチの内容や構成を考えることに課題が見られる。	・話の内容が明確になるように、スピーチメモを作ったり、目的に応じて資料を使ったりする活動を繰り返し行っていく。 ・話し合う場の設定だけでなく、教師や友達の発表、教材文等を「聞く」活動を繰り返し設定するなど、聞き方のポイントを明確にしながらい指導を行っていく。
B 書くこと	平均正答率は、全国平均よりも低い。 ●文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える設問の正答率が低い。 ●文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つける設問の正答率が低い。 記述式の問題に答えることに課題が見られる。	・学年の発達段階に応じて、学習のまとめ、振り返りを記述する取組を継続して行い、自分の考えをまとめ、書くことの習慣化を図っていく。 ・教材文の中の大切なキーワードを使うように指示したり、文字数を制限したりする等、条件に合わせた記述にも取り組ませながら、書く力をつけていけるよう指導を継続していく。
C 読むこと	平均正答率は、市平均、全国平均よりも低い。 ○資料を読み、文章の内容や構成を的確に押さえて読むことができていく。 ●選択肢から適切な解答を選ぶ問題の正答率が低い。選択肢の内容を読み取ることが難しかったと思われる。	・国語の授業における読み取りの指導を充実させる。 ・本校の朝の活動に週2回設定されている「読書タイム」やそれ以外の時間にも児童はよく本を手に取り読書に親しんでいる。必読書を中心に、学年に応じた内容の本を読めるように指導していく。 ・身近に本を置くことで、本を手に取りやすい環境を整えるため、学級文庫の充実を図り、読書の面白さに触れることができるようにしていく。

宇都宮市立田原小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	69.7	69.5	69.8
	B 図形	61.4	65.4	64.0
	C 測定			
	C 変化と関係	47.7	49.3	51.3
	D データの活用	59.6	68.0	68.7
観点	知識・技能	64.3	67.3	68.2
	思考・判断・表現	55.4	57.3	56.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

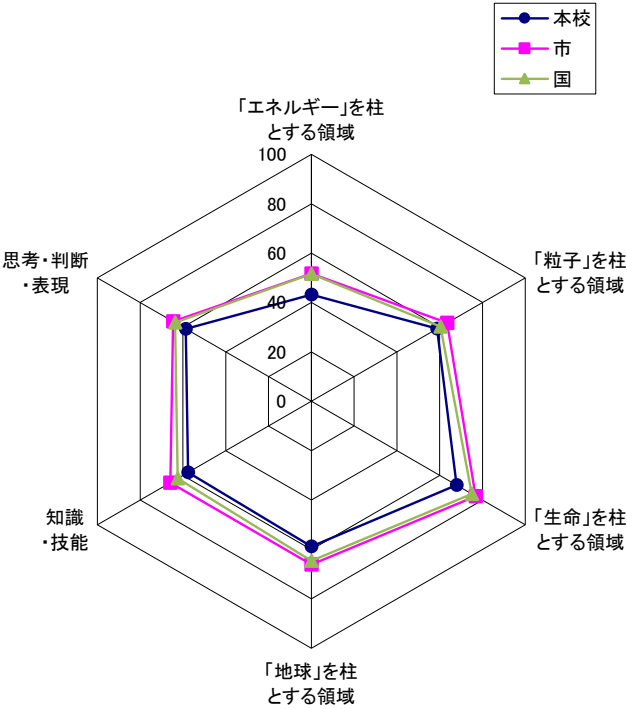
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は、全国平均と比べてほぼ同じである。 ○2つの数の最小公倍数を問う設問や、問題に示された式の意味を説明する設問の正答率が、全国平均と比べて高い。公倍数の仕組みや、文章問題を意味を理解することができている。 ●概数の考え方を利用して、数の見積もりを立てる設問の正答率が、36ポイントであった。これまでに学習した内容を使って、応用的な問題を考える力に課題が見られる。	・今後も、朝の基礎学習の時間や家庭学習で繰り返し計算練習を行い、基本的な計算力の定着に向けた指導を行う。 ・計算だけでなく、言葉と数を使って記述する応用的な課題に取り組ませ、数量の関係について論理的に考察したことを数直線や図などを利用して説明する力を養っていく。
B 図形	平均正答率は、全国平均と比べて低い。 ○プログラムをもとにして正三角形や長方形を描くために、必要な手順を考える設問の正答率が、全国平均よりも高い。正三角形や長方形の意味や性質をよく理解している。 ●ひし形を描くために、必要な手順を選択する設問の正答率が、全国平均に比べて20ポイント低い。図形を描くための手順について、言葉で説明する力に課題が見られる。	・実際に図形を作図したり、比べたりするなどして、具体物を操作する活動を取り入れ、図形の特徴について理解できるようにする。 ・一人一台端末やアンブレグド学習等を利用して、プログラミング的思考を育むようにする。
C 変化と関係	平均正答率は、全国平均と比べて低い。 ○百分率で表された果汁の割合をもとに、飲み物の実際の果汁の量を求める設問の正答率が、全国平均と比べて高い。割合をもとにして、実際の数量を求める力が付いている。 ●飲み物の量が半分になったときの、果汁の含まれる割合を求める設問の正答率が低い。全体の量が減っても、割合自体は変わらない、などといった割合の性質についての理解に課題が見られる。	・割合の学習について復習的な学習を取り入れるとともに、応用問題に取り組む時間を作り、割合の性質についての理解を深めるようにする。 ・習熟度学習を継続し、個に応じた問題に取り組ませるとともに、既習事項を確認できるプリントを用意し、朝の基礎学習の時間に繰り返し取り組み、習熟を図っていく。
D データの活用	平均正答率は、全国平均と比べて低い。 ●アンケート調査の結果をもとに、重なっている回答を選んだり、円グラフをもとにして結果を考察したりする設問の正答率が、全国平均よりも低い。データを整理したり、結果から分析をしたりする学習に課題が見られる。	・今後は、円・帯・棒グラフなどのデータを活用する問題を反復練習していく。また、習熟度別学習を生かして個に応じた指導の充実を図る。

宇都宮市立田原小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	43.2	51.7	51.6
	「粒子」を柱とする領域	58.8	63.5	60.4
	「生命」を柱とする領域	67.9	76.8	75.0
	「地球」を柱とする領域	58.8	66.1	64.6
観点	知識・技能	57.6	65.9	62.5
	思考・判断・表現	58.7	64.6	63.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、全国平均と比べて低い。 ●問題に対するまとめから、その根拠を実験の結果を基にして書くことに課題が見られる。	・観察、実験などで得た結果について分析して、解釈し、より妥当な考えをつくりだすことができるようにするためには、結果を事実として分析して、解釈し、それを結論の根拠として表現できるようにしていく。 ・知識をより深く理解できるようにするためには、主体的な問題解決を通して知識を習得し、学習の成果を日常生活との関わりの中で捉え直すことができるようにしていく。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、全国平均と比べて低い。 ○凍った水溶液について、試してみたいことを基に、見いだされた問題を書くことができている。 ●一定量の液体の体積を適切にはかり取る器具の名称を書くことに課題がみられる。	・実験では、器具の名称を確認し、それを使用する場面を設定すること、器具や機器などの操作にどのような意味があるのかを理解させていく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、全国平均と比べて低い。 ○昆虫の観察記録の視点をもとに、誰が観察したものかを問う問題で、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができている。 ●育ち方と主な食べ物の二次元の表から気づいたことを基に、昆虫の食べ物に関する問題を見出して選ぶ問いについて、課題が見られる。	・観察結果を自分の言葉でまとめたり、グラフや表に表したりして比較・分類し、考察を導き出すといった科学的な思考を深められるような授業展開を行う。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、全国平均と比べて低い。 ○季節の気温の変化を、グラフや文章から分析する問題において、観察などで得た結果を、結果からいえることの視点で分析することができている。 ●朝、鉄棒に付着していた水滴と氷の粒は、何が変化したものかを問う問題に、課題が見られる。	・日頃から身近な場面で自然や季節に触れる機会を増やし、日常生活と科学的事象を結び付けた体験を積み重ねていく。

宇都宮市立田原小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分には、よいところがあると思いますか」の肯定割合は91.4%であり、全国平均を12.1ポイント上回る結果となった。自分に自信をもち、充実した学校生活を送ることができている。今後も、児童が自信をもちながら何事にも取り組むことができるように工夫していく。

○「将来の夢や目標を持っていますか」の肯定的回答は100%であり、全国平均を20.2ポイント上回っている。今後も、総合的な学習の時間等を通して、自分の将来に夢や希望をもち、自分に自信をもって未来を切り拓いていこうとする態度を育てていく。

○「家で自分で計画を立てて勉強していますか」の肯定的回答は88.6%であり、全国平均を17.5ポイント上回っている。家庭学習の習慣が身に付いてきていると伺うことができる。しかし、今回のテスト結果や学校の単元テストの結果には結びついていない。今後も児童と保護者に喚起し、継続的に家庭学習に取り組んでいけるように支援していく。

●「読書は好きですか」の肯定割合は、62.9%であり、全国平均を10.2ポイント下回っている。また、国語に関する質問項目(4問)では、全項目で全国平均を下回っている。児童の実態として、語彙力や言葉の意味・気持ちの読み取りなど国語に関して苦手意識をもっている児童が非常に多い。今後も継続してさまざまな取組を行い、支援していきたい。また、本校では、保護者ボランティアによる「本の読み聞かせ」の実施や、「読書週間」を活用して読書を促す活動を行う等、読書の楽しさを感じられる活動を行っているため、そちらの活動にも意欲的に取り組むことができるよう声掛けをしていきたい。

宇都宮市立田原小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の展開 家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	「宇都宮モデル」をもとにした「田原っ子の学び」を展開し、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善を推進する。 児童の資質や能力の把握に努め、個別指導や少人数指導、習熟度別指導、TT、専門性を生かした教科担任制、かがやきルームの活用等により、指導の充実を図る。	国語の、「思考力・判断力、表現力等」において「書くこと」「読むこと」の正答率が、県に比べて5ポイント程低い。 6年生では、「学級の授業時間以外に普段1日当たりどのくらいの時間勉強していますか」の設問では、30分以上1時間未満と答えた児童が45.7%で1時間以上2時間未満と答えた児童が40%であった。本校の目標時間である1時間以上学習している割合は全国平均と比べると高いものの、県の平均と比べると低い結果となっている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
各教科に関する調査において、漢字や言語など、基本的な知識や技能に関わる問題の中で、全国平均よりも低い傾向にあった。 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える設問の正答率が低い。また、文章問題において、選択肢から適切な回答を選ぶ問題の正答率が低い。 物語や説明文を読み取り、登場人物の気持ちの変化や情景について考えたり、叙述を基に文章の内容を捉えたりすることに課題がある。	・課題を解決するために必要な力を身に付けさせる。 ・単元の導入の工夫。	教科の授業に加え、朝の学習や家庭学習の充実を図り、基礎基本の定着を目指す。また、学期末や学年末などに、複数単元の内容をまとめて復習する学習を行い、各単元の学習内容の共通点や違いを整理して身に付けられるようにする。また、単元の導入を工夫して児童の意欲を高めるようにする。 全学年までの内容を復習する機会を設定し、定着を図るようにする。 授業の中で自分の考えを記述する機会を設けるようにする。その際には、字数や段落など条件を提示して書く練習をさせるようにする。また、理由や根拠を示す書き方を練習させたり、どの文章から登場人物の気持ちが想像できるのかを確認してから書くようにさせたりする。さらに、日常的に既習の漢字を使って書くように指導していく。